

2024 年度 個人研究実績・成果報告書

2025 年 4 月 10 日

所属	基盤教育機構	職名	准教授	氏 名	手嶋 進
研究課題	サステナブル・ビジネスモデルの普及 ― 地域再生可能エネルギー事業の事例研究				
研究キーワード	サステナブル・ビジネスモデル、地域再生可能エネルギー事業	当年度計画に対する達成度		2. 順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた	
関連するSDGs項目	7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに	11. 住み続けられるまちづくりを	12. つくる責任 つかう責任	13. 気候変動に具体的な対策を	

1. 研究成果の概要

2024 年度は、主たる研究として（１）「サステナブル・ビジネスモデルの普及」を行なった。また、（２）サステナブル・ビジネスの担い手であるサステナビリティ人材育成の観点から千葉商科大学の学生の学びを、（３）自然エネルギーの実践的導入を含めた環境貢献効果の観点から GHG 排出ネットゼロについての研究も行なった。

（１）サステナブル・ビジネスモデルの普及 ― 地域再生可能エネルギー事業の事例研究

この研究の目的は、サステナブル・ビジネスモデル（Sustainable Business Model: SBM）の事業を始めたサステナブル・アントレプレナーが先行事例の何を採用したのか、普及の対象とプロセスを明らかにすることである。昨年度に実施したアントレプレナーや事業関係者へのインタビューの成果を活用して、地域コミュニティが主導する、もしくは便益を享受する再生可能エネルギー事業（地域再エネ事業）の事例を分析した。先行事例の SBM はそのまま他のサステナブル・アントレプレナーに採用されるのではなく、SBM を構成するコンポーネント単位で参考にされ、変更され、新たに構築されていることを明らかにした。

先行研究では、普及の対象である事業やビジネスモデル自体に十分な注意が向けられず、先行事例の何が他の組織によって採用されたのかが明示的に分析されていなかった。本研究では複数のコンポーネントで構成される SBM の概念を用いることで、事例の特徴を明らかにするという貢献ができたと考えられる。さらに将来的な可能性として、先行事例から抽出したコンポーネントをその特性によって分けて整理することができれば、これから地域再エネ事業の SBM を構築しようとする実務者に対しても有益な知識体系を提供できるであろう。また、普及プロセスをより精緻に分析できる枠組みを提供する貢献もできたと考えられる。

研究の成果として、論文を『企業と社会フォーラム学会誌』に投稿し、掲載された。この学会誌投稿論文を発展させて博士論文とする予定である。博士論文の要旨を 11 月に千葉商科大学大学院政策研究科の公聴会で発表し、参加した先生方から肯定的な意見をいただくことができた。

（２）環境講座の企画運営 ― 正課講義と課外活動を活用した学び

千葉商科大学の学生による環境教育を、正課授業として鎌ヶ谷市の小学生向けに、課外活動として市川市の小学生向けに実施した。これらの実践を通して得た学生の主観的な気づき等を整理し、環境科学会にて学生とともに報告した。

（３）GHG サプライチェーン排出量の算出とネットゼロ目標

千葉商科大学で実践してきた自然エネルギー100%の活動検討と並行して、温室効果ガスの排出をネットゼロにする検討も行なってきた。スコープ3 までを含む範囲でネットゼロを達成するのは非常に困難であり、多く

の組織が手探りの状態である。そのため、どのような現状把握を実施しているのか、どのような施策に結びつけようとしているのかの実態を明らかにし対外的に発表することは社会に貢献することにつながる。まだ、施策を明確にするには至らないが、現状把握の手法を整理して発表することができた。この成果は本学が加盟する Race to Zero キャンペーンの報告にも役立つ実践的なものである。

2. 著書・論文・学会発表等

【論文（査読あり）】

手嶋進「サステナブル・ビジネスモデルの普及—地域再生可能エネルギー事業の事例研究」『企業と社会フォーラム学会誌』, 第 13 号, pp. 57-69.

【著書】

原科幸彦・手嶋進（編）『自然エネルギー100%大学』（CUC サポート, 2024）の以下の節を執筆担当した。

原科幸彦・鮎川ゆりか・手嶋進「1-3 自主活動から大学組織の活動へ」, pp. 19-24

手嶋進・近藤良介「2-1 省エネルギー施策」, pp. 34-41

手嶋進・近藤良介・大杉仁「2-2 創エネルギー施策と再エネ電力の調達」, pp. 42-50

大杉仁・近藤良介・手嶋進「2-3 継続的な施策の検討と導入」, pp. 51-54

杉本卓也・手嶋進「3-2 教育的意義」, pp. 81-86

手嶋進・高橋百合子「4-3 訪問者の方々との交流」, pp. 101-105

手嶋進「4-4 活動の外部評価」, pp. 106-110

【学会発表】

杉本卓也・手嶋進「自治体との包括協定における環境講座の企画運営：千葉商科大学における正課講義と課外活動を活用した多様な学び」環境科学会 2024 年会 企画シンポジウム 3「多世代・多地域連携による人材育成—インカレ SDGs プロジェクトを例として—」, 2024 年 9 月 9 日（東京大学本郷キャンパス）

中山琢夫・手嶋進・寺野隆雄・原科幸彦・大杉仁「GHG サプライチェーン排出量の算出とネットゼロ目標」環境科学会 2024 年会, 2024 年 9 月 10 日（東京大学本郷キャンパス）

手嶋進「サステナブル・ビジネスモデルの普及プロセス — 地域貢献型再生可能エネルギー事業の事例分析」千葉商科大学大学院政策研究科公聴会, 2024 年 11 月 9 日（千葉商科大学）

3. 主な経費

書籍・雑誌等が約 19 万円と最も金額が大きく、それ以外は学会等参加費用、視察のための出張費用、プリンターのインクや名刺等の消耗品に経費を使用した。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

【その他の活動】

- 船橋市新商工業戦略プラン策定委員会 委員長
- 千葉県太陽光発電設備共同調達支援事業に係る支援事業者選考審査委員会 委員